

# 私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。

コロサイ4:3

## 2014(26)年 週 報

11月 2日  
第1聖日  
3376号

「真の福音」

### 聖言

こういうわけですから、私たちが主イエス・キリストを信じたとき、神が私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにお授けになったのなら、どうして私などが神のなさることを妨げることができません。人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、命に至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。」といって、神をほめたたえた。使徒 11 : 17, 18

#### 礼拝の恵み 第一八章 第七節 礼拝の仕方

第一節 礼拝は霊的であるべきである

聖なる熱心の代わりに人為的な感激を置くことにより、主の喜びの代わりに肉体的な感動を置くことにより、御霊の一致の代わりに組織統制を置くことにより、内的な実体の代わりに外的な宗教性を置くことにより、たましいの中で教義の真理を暖かく体験し味得する代わりに、冷たい青鞥信仰を置くことにより、肉声が「い」要図に靈性をまねることではできよう。人為に對する最良の予防手段は、靈性である。魂が意識的に神と交わっており、靈的に事実を味わいつつ生きていかならば、礼拝を誘導する必要はないであろう。他人に礼拝を強いるよびかけなどはなくなるであろう。旧約の燔祭の煙が自然に神まで上ったように、礼拝は自発的にのぼるであろう。

第二節 礼拝に真実であるべきである

キリストは礼拝が只「霊をもつて」「すべきばかりでなく、また「まことをもつて」「すべきであることを、言明された、我らの礼拝は神の言葉の真理によつて導かれるべきであるばかりでなく、それはまた真実をもつて、ささげられなければならない、というのである。礼拝のなかに虚偽があつてはならないし、また我らが本当に所有しているより以上に大きな靈性を装つてもならない。神ほどのような形において偽善を憎みたもう。パリサイ人の祈りに突いての主の言葉は宗教的な偽善に對する主の嫌悪を雄弁に物語っている。(ルカ一八) (A pギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp